

2021.09.16 draft

海ノ民話のまちプロジェクト 実施地域に対するアンケート調査

一般社団法人日本昔ばなし協会



サマリー

民話の保全活動の現状: 担い手減少に伴い専門知識や伝承ノウハウも衰退し始めている

- 全国各地域で民話を語り継ぐための活動はなされているものの、その担い手不足(高齢化)、それによる専門的な知識やノウハウ・スキルも衰退していく傾向が見受けられる
- 情報発信や専門家や地域内組織と連携した活動の活発化、そのための活動財源の確保も課題としてあげられている

民話を伝える意義・価値: 民話の価値はそのものの「ストーリー」とともに「伝える」ことにより発露する

- 民話には地域の歴史や先人の教訓を伝える重要な役割があるという共通の価値認識がされている
- さらに、民話を「伝える」という行為が、世代を繋ぐ役割、郷土愛を醸成する役割、ともなっている

海ノ民話のまちプロジェクトの効果と課題: 具体的な効果が見受けられる一方で、効果の継続・活用展開が課題

- プロジェクトによって、幅広い世代における民話や地域に対する関心の向上や、地域活性化に資する新たな取り組みの創出、地域内連携の構築など、様々な効果が生まれている
- 一方で、プロジェクト終了後の継続性・自走化が課題として残る
- 全国を横櫛にするプロジェクトとしての施策にも期待がもたれている

実施概要

目的

- 各地域における民話の保全活用の状況や現状の課題の把握
- 海ノ民話のまちプロジェクトによる効果や課題の把握

実施期間

- 2021年7月26日～8月20日

実施対象

- 海ノ民話のまちプロジェクトエリア事務局の方々
- 各地域の民話の保全や活用、またはそうした取り組みの支援に携わるの方々

実施方法

- オンラインアンケートフォームによる回答
- アンケート用紙への記入(ワードファイル及び手書き)

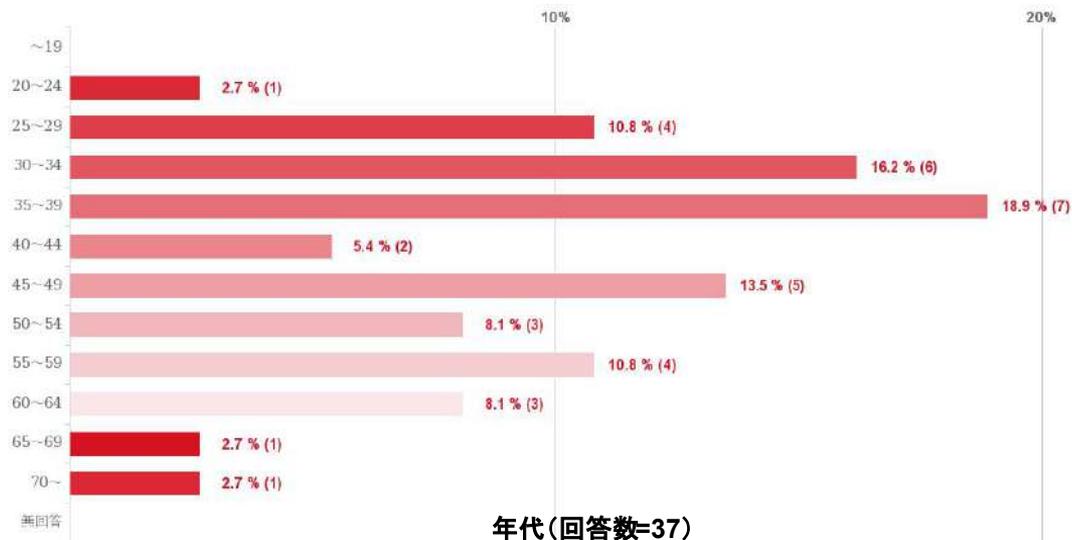
回収数

- 回収数:37

回答者属性



性別(回答数=37)



年代(回答数=37)

地域別回収数

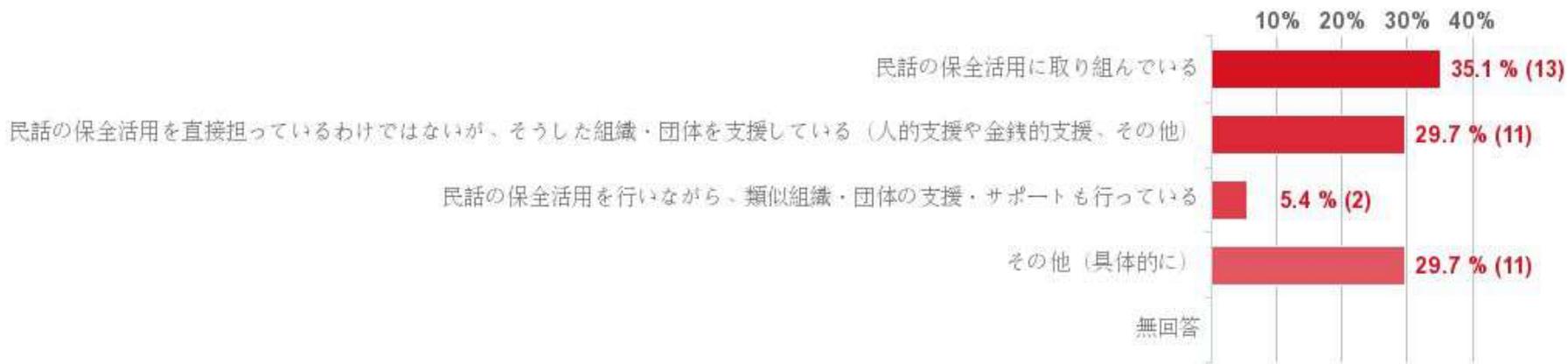
選定地域	回収数
・愛媛県伊方町	1
・愛媛県今治市	1
・愛媛県松山市	4
・岡山県倉敷市	2
・沖縄県南城市	1
・沖縄県名護市	1
・岩手県普代村	2
・宮城県七ヶ浜町	2
・京都府宮津市	2
・山形県鶴岡市	1

選定地域	回収数
・滋賀県長浜市	1
・新潟県糸魚川市	3
・神奈川県藤沢市	1
・静岡県焼津市	1
・静岡県袋井市	0
・長崎県佐世保市	1
・長野県小海町	3
・鳥取県智頭町	3
・島根県松江市	1
・徳島県小松島市	1

選定地域	回収数
・富山県魚津市	0
・福井県美浜町	0
・福島県いわき市	0
・北海道寿都町	4
・和歌山県串本町	1

回答者は「民話の保全活動に取り組んでいる」組織・団体に属している方が最も多く、ついで、間接的に支援をしている団体となる。

所属する組織・団体



n=37, 単一回答

所属組織・団体の具体的な取組みは、収集・記録、編集・執筆、発行・販売といった活動に加え、教育活動やSNSを用いた情報発信、イベントの開催など、積極的な普及活動が展開されている。海プロをきっかけとした動きも見られる。

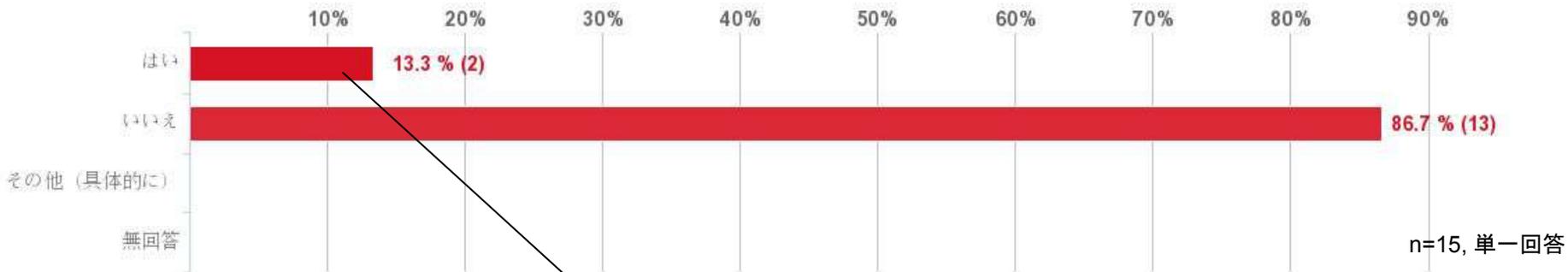
所属組織・団体の具体的な取組み

カテゴリ	件数	民話の保全活用に関して行なっている取組(民話の記録、保存、普及活用など)
海プロ	2	・海プロ通じての普及/制作頂いたアニメを活用した民話の普及活動
教育・普及	3	・小中一貫教育の独自教育課程「ふるさとみやづ学」で子ども達が学習しています。 ・民話を紙芝居にして、子供を中心にお話を広めている。 ・民話を活かした学習や、地域イベント、普及活動などを実施
収集・記録保存	3	記録保存/資料の収集、保存/民話の記録、保存
情報発信	1	SNSで民話の紹介をしたり、観光物産協会発行のフライヤーやパンフレットなどにも掲載しています。
寸劇・演劇	1	民話をもとに寸劇をする(文化祭などで上演する)
編集・執筆・発行	4	ふるさとの民話集「四島のむかし話」の編集・執筆 町誌に民話を記載・伊方町と伊方原子力広報センターが作成するカレンダーに民話を掲載 民話の刊行物の編集、販売 郷土史家による民話調査の支援、冊子の刊行

民話の保全活動に対する外部関係組織からの支援はほとんどの場合「なし」。
ほとんどが保全活動を中心とした組織であり収益事業を行わないことも後述の財源確保の課題に結びついていると言える。

民話の保全活動に対する支援の有無(行政やその他機関からの人的支援、金銭的支援、その他)

「民話の保全活用に取り組んでいる」または「民話の保全活用を行いながら類似組織・団体のサポート・支援を行っている」組織・団体に属している方を対象に回答を得た



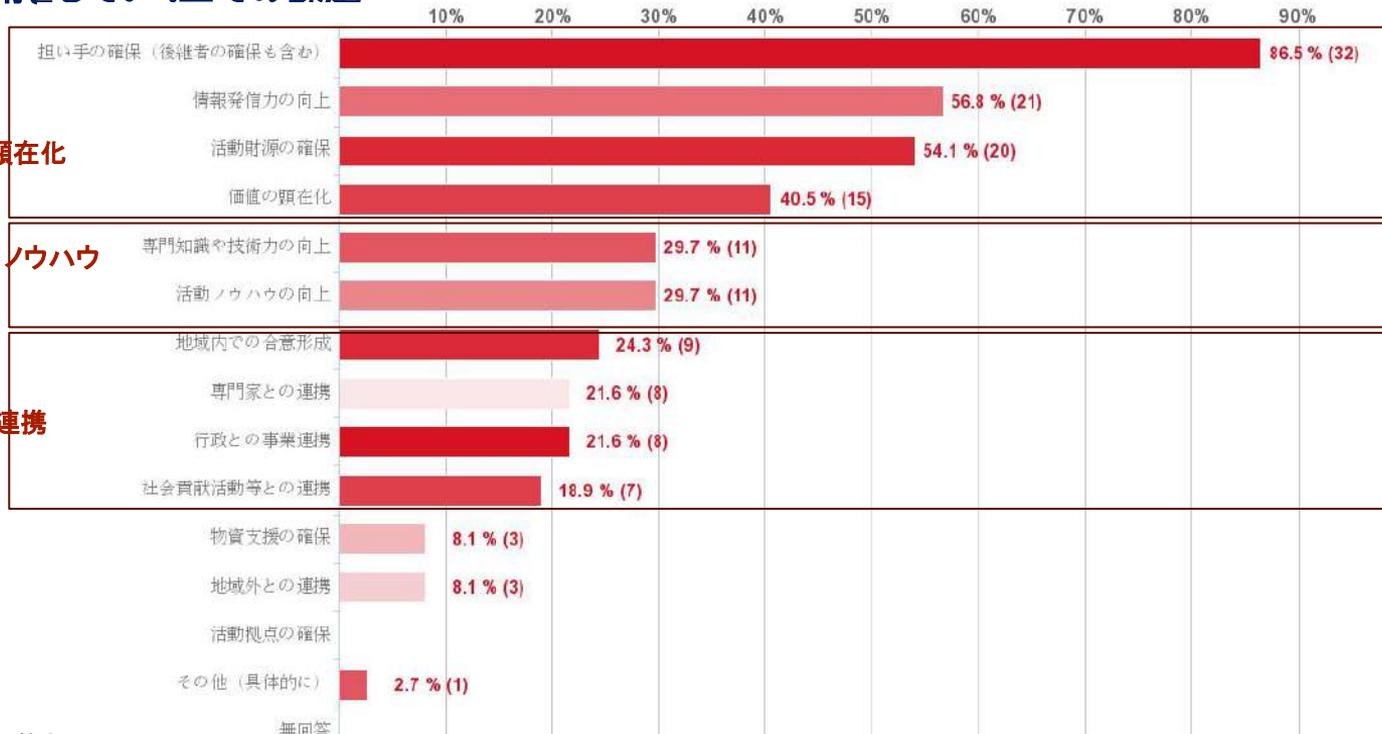
保全活動に対する支援の具体内容

- アニメ上映場所としての公共施設の無償利用
- 町づくり協議会より補助金 (50%)

民話の保全活動をしていくための課題としては、大きく「人材や財源の確保」「情報発信力向上や価値の顕在化」「専門知識・技術の向上、ノウハウの向上」「地域内及び専門家との連携」という点があげられた。

特に、活動の基盤ともなる人材＝担い手の確保については全体の86.5%が課題と感じていることがわかる。

民話の保全活用をしていく上での課題



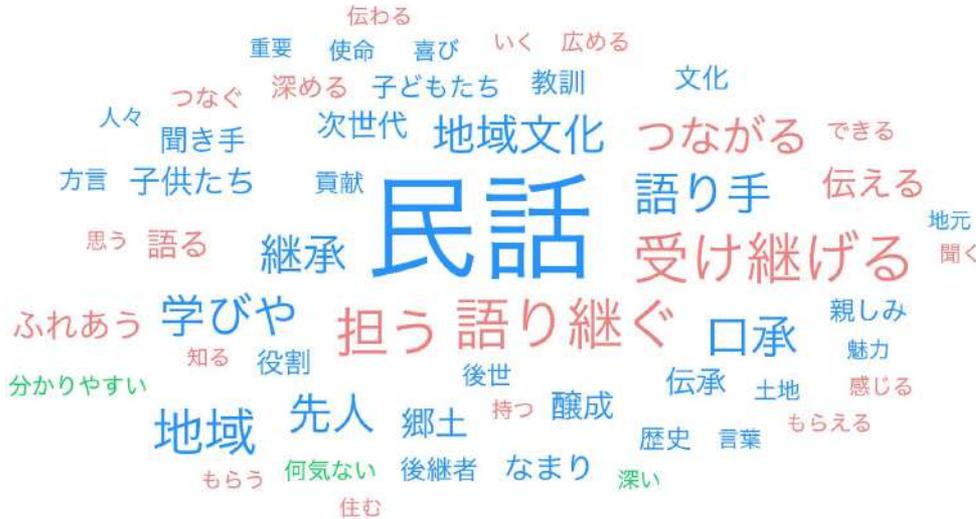
n=37, 複数回答

民話に前頁の価値があるという認識のもと、地域文化や方言・言葉を継承するという**重要なミッション**を担うこと、語り継ぐことによる**地域や次世代との繋がり**ができること、自分自身にも**新たな学び**があることに喜びややりがいを感じている。

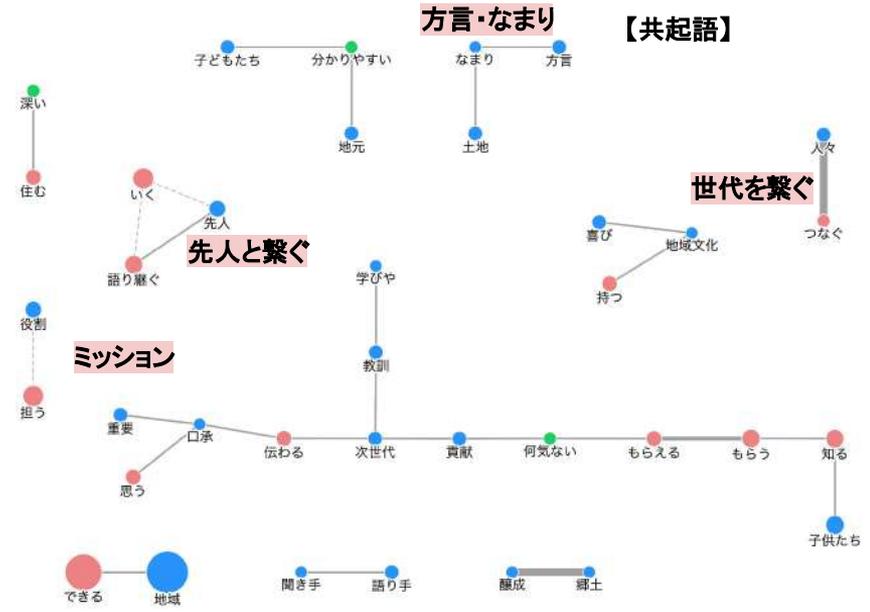
民話の語り手にとっての価値

※テキストマイニングにより頻出語、共起語を可視化※UserLocal テキストマイニングで分析)

【頻出語】



【共起語】



プロジェクト前後では少なくとも全体の62%以上がポジティブな変化を感じており、特に民話に対する関心の向上や地域内での機運醸成が挙げられている。さらに商品化や学校教育への取り入れ等の新たな取組みの創出も見受けられる。

海ノ民話のまちプロジェクト前後での地域の変化

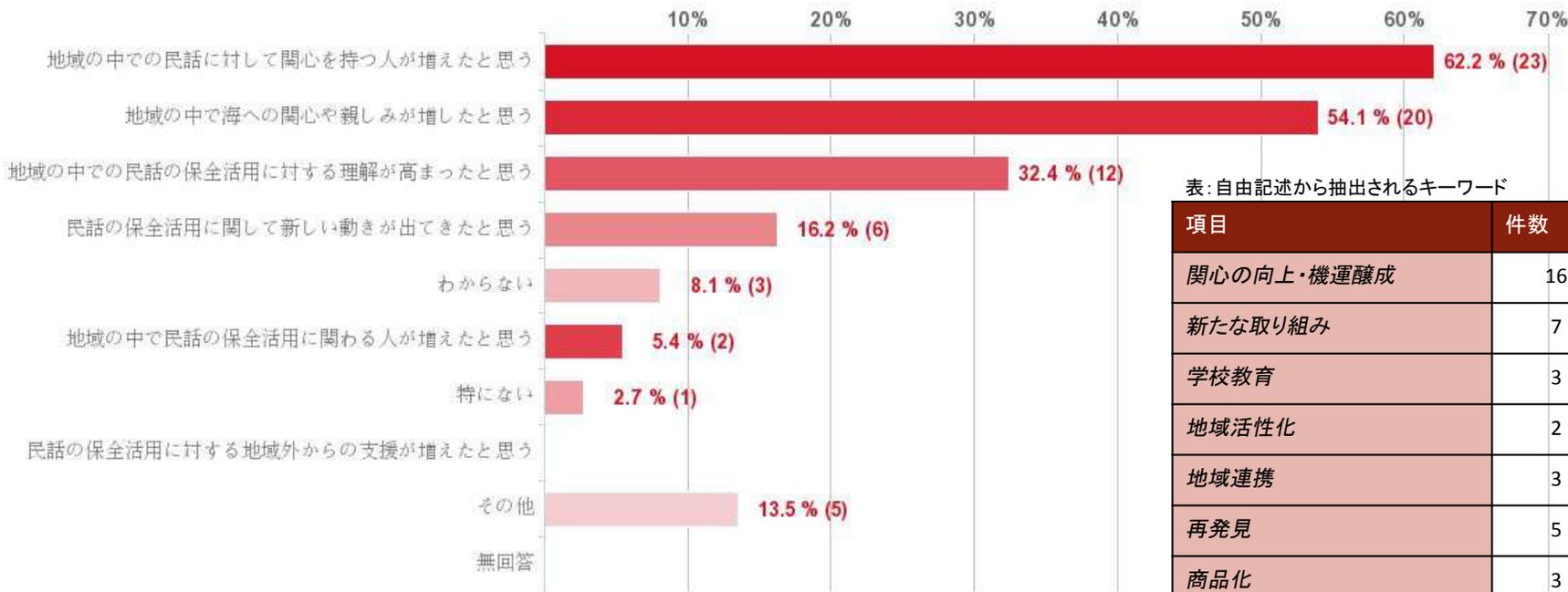


表: 自由記述から抽出されるキーワード

項目	件数
関心の向上・機運醸成	16
新たな取組み	7
学校教育	3
地域活性化	2
地域連携	3
再発見	5
商品化	3

海ノ民話のまちプロジェクトを推進することの効果として、新たな地域内連携や地域活性化に向けた取組みが認識されている。さらに、アニメ化が民話に触れる機会の拡大や地域の魅力発信への効果的であると認識されていることがわかる。

海ノ民話のまちプロジェクトの効果

※自由記述から抜粋

プロジェクト推進の効果

お土産品のバリエーションに加わった

アニメ化、テレビ放映、アニメの活用に関するさまざまな動き

地元自治体に積極的に参加して頂いている

あらゆる機会を通じて、子どもから大人までに発信することを予定しており、地域のこともっと知ってもらおうように取り組みます。

認定を受けて積極的に活用しようとする考えはあります

行政・商工会を巻き込んでいるため、民話に対する価値・活用方法への意識は高まるように思う

これから、ボランティア団体と行政と地域団体が協力して民話から故郷を発信できる「何か」を模索していける

観光資源のひとつとして生かされている

民話について何も知らなかった町民が、町の広報誌での紹介などで広く知るきっかけになりました

アニメ制作により、学習教材等、地域で民話を感じる機会が多くなった

民話そのものを知らない子供たち(大人)にも告知できた

アニメ化の効果

子供達を知るきっかけ

民話の保全とPR

アニメを作ることによって子供達により身近になる

これまであまり知られていなかった民話がアニメとなったことで、舞台となる地域や子どもたちにわかりやすく伝えていくことができる

今後、アニメ完成後のエリア内での展開を期待している

気軽に民話を楽しめるようになった

行政としても歴史ガイドブックなどへアニメ映像を掲載する、生涯学習事業の中でアニメを活用した普及事業を行うようになった

多くの方にアニメーションを見てもらい、海や民話について興味を持ってもらえたと思う。

民話を通して、町の魅力を町外に発信できる

海へとつながる山、海の豊かさを生み出す山に注目してもらおうきっかけづくりとなる

海ノ民話のまちプロジェクトに主体的に携わることによって、新たな視点の獲得や、地域や海に対する関心の向上など、関係者自身にもポジティブな変化が生じていることがわかる。

海ノ民話のまちプロジェクトに携わることによる自身の変化

※自由記述から抜粋

- 民話が生まれた背景やその舞台となった場所についてもより一段と興味が増し、さらなる調査研究と情報発信の必要性を感じています。
- 県内の民話を探そうになった / この地域の民話に興味を持た / 地域の民話に関心を抱くようになった
- 黙ってはいすたれていくものを残していく活動はとても大きな可能性と価値を感じている。
- 取組み前は海ノ民話に触れる機会がなかったが、民話について深く考える良い機会となりました。
- 子供たちに地域の民話に触れる機会がもっとあれば良い など思う。
- 今まで民話を伝える活動をしてきたが、今後は、地元の方をたくさん巻き込んで活動していける勇気が湧いてきました。
- これまで埋もれていた民話を取り巻く遺構などに再度光を当てるべく人が集まり始めた。

地域への
関心向上

海への
関心向上

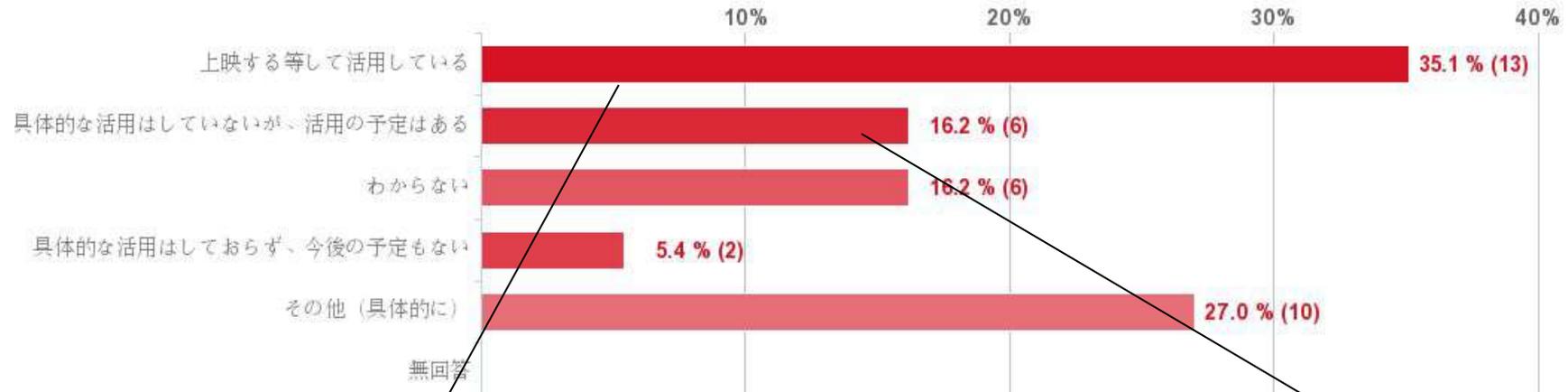
再発見
新たな視点

- 身近なところに豊富な水産資源があることも再認識 出来た
- 舞台となった地域の今昔を再認識でき、特に環境の変化に対する理解を深め、海
洋教育への新たな取組を模索する契機 となった
- 生まれ育った街に伝わる話はとても身近であり、ご先祖さまが体験したものは町民
の誇り。プロジェクトのおかげで街全体に知れ渡ったことがとても嬉しいです。海を
キレイにしつづけようという気持ちも高まりました。
- 海の豊かな資源の恩恵を受け自分たちは育ってきたので、地域の最大資源(魅力)
である海を保全していくことの意識が強くなった
- これまでの何気ない風景が、その時代の方の視点に置き変えると特別なもので
あったこと、また、海の保全に対する意識の重要性を改めて認識 しました。
- 海の保全や美化について、よい教訓となるような民話 が地域に伝わっていることを
知り、今後の活用を検討してみたいと感じた。
- アニメ化されるまでの取組みを通して、海にまつわるさまざまなことに関心や 興味
を持つという意識が生まれた。
- 海で遊ぶ・漁に出る等、地域住民にとって、海は身近な存在でありながら、その海
との関わり方を教える教材が明確になっていなかったものが、海の民話のまちプロ
ジェクトのアニメで明確になった。

- 自身も近くに住んでいながら民話の存在や地域で大事に語り継がれていることを知らなかった。多くの方が知ることによって、いろんな広がりができるもの
と思います
- 事務局として、地域の人たちの民話活用への意識の高さには驚いた。 地元を愛する心を育てたいという思いは、各所で強くある のだと思った。
- 地域の見方が変わったというか、新しい視点を手にした
- 民話に出てきた場所の近くを通ると、民話を思い出そうになった
- 民話の宝庫と再確認しました / 地域に伝わる民話を大切にしていきたいという思いが強くなった / 今回の民話に限らず、エリアに伝承されている民話全般に
興味を抱くようになった

制作したアニメは約35%の地域ですでに活用しており、その他約16%の地域でも今後の活用を予定している。地域内各所での放映やYouTube・WEBサイトへの掲載といった方法で、普及や観光側面への活用がなされている。

海ノ民話のまちプロジェクトで制作したアニメの活用状況



【具体的な活用状況】

YouTube への掲載、WEBサイトへの掲載、港の待合所での上映DVD制作及び配布、卓上POP製作及び配布、ポスター制作及び配布、図書館DVD貸出、市役所庁舎内サイネージで上映、市HPでの配信、駅の大型ビジョンでの放映、道の駅での放映、町内ケーブルテレビでの放映、観光パンフレットへの掲載 等

【今後の予定】

公共施設での上映や教材としての活用、地域内組織との連携(まちづくり団体等)、フィールドワークへの活用 等

n=37, 単一回答

海ノ民話のまちプロジェクトに対して、民話や舞台となる地域への関心の向上や、教育への活用の他、地域の魅力発信や観光コンテンツとしての活用にも期待がもたれている。

海ノ民話のまちプロジェクトへの期待

※自由記述から抜粋

民話・地域への 関心向上

- アニメによって幅広い世代の人たちが気軽に民話に触れ、民話へ親しみを持ち、関心の向上や理解が深まること。
- アニメ化した民話をきっかけに他の民話や地域への注目や関心が高まること(現地訪問や歴史風土への関心など)
- テレビの影響力が大きいので、できれば早い時間帯での放送。過去年度の制作分を特番で一挙放送するなどする。
- より多くの場所で、多くの関係する方々から見てもらい、何かを感じてもらいたい。特に、子どもたちには素晴らしい民話があることを知ってもらい、伝承してほしい。

地域間連携 活動拡大

- 地域間の連携
- もっと全国に活動が広がり、人々の関心が集まればよい。

地域PR 活性化

- アニメを通して子供たちに民話を伝え、キャラクターを活用して、町外にも地元を発信したい
- アニメを活用して町の魅力を町外に発信したい
- 地域の魅力を発信するツールのひとつとして、多方面でアニメの上映や普及に努めていただきたい
- アニメをきっかけに観光に訪れる人が増えること観光側面での活用
- 近隣地域の小中学生にも見てもらい、うちの町に興味をもってもらえたら嬉しい
- 地元学校のフィールドワーク、ほか観光コンテンツとの連携
- 離島の活性化

教育 まちづくり

- 年に1回の上映会とワークショップの開催(幼稚園等を巡回するなど)
- 学校教育での活用歴史を伝承する重要なもの
- 教育の観点から啓発を進めることで、環境問題への意識付けに繋がればと思う
- 地元学校のフィールドワーク
- 海なし県でも海との深い繋がりがあつことを知る機会

海ノ民話のまちプロジェクトに関しては総じて高評価であるものの、その持続性・活用展開に関して課題が残る。単年度事業という特性の中で、いかに次年度以降自走できる体制を構築するかが課題となると考えられる。

海ノ民話のまちプロジェクトの課題

継続性 自走化 (単年度事業による時間・予算の制限)

- 年度予算のため、自走するための助走期間が短い
- 地域とテレビ局との意識のすり合わせ、事前準備が足りない
- 町内の事業所が減少している中で、アニメオリジナル商品開発を短期間で実施・検討することは非常に難しい

アニメ 制作後の 活用展開

- アニメ制作後の展開の乏しさ アニメ作品の効果的な活用
- 限られた地域での伝承ということもあり、ほとんど知られていない物語を今後どの程度まで認知してもらえるかについて具体的な取組が見えていない点が気がり
- 例えばテレビで放映する等、より多くの人に情報発信ができればいいと思う
- 事務局体制が終わった後の利活用が思ったように進まない(定期的な上映で終わってしまう。)
- 認知が低いため、もっと子供たちに知ってもらえるよう、教育委員会や図書館などと連携して活用できると良いと思ひ地元への認知が必要かと思う
- 地域間の連携による相乗効果

ステークホル ダーとの関 係構築 地域住民の 巻き込み

- 今回は自治体の協力が得られたが、今後、別な地域で実施する際に、民話の管理者や有識者にたどり着くルートをどのように構築するか
- 地元の方をどれだけ、たくさん巻き込んで一緒にやっていけるか、協力してくれる方がいるか心配
- どれだけたくさんの地元民や団体と連携できるかが不安
- 実行委員会の運営

コンテンツ 発掘・制作

- 民話のシナリオの地域での合意形成
- アニメ化に耐えるエンタメ性のある「民話」をじっくり探すことがなかなかできない

プロジェクト自 体の認知度 向上

- プロジェクト自体の認知度
- プロジェクトの活動がもっと周知されると良い